令和７年度学校評価アンケート結果と次年度の重点目標

1. 生徒アンケートの傾向と課題

傾向：良好な人間関係と ICT への意欲

- 思いやりと人権意識： 「友達の良いところを認め、思いやりのある行動ができましたか」という項目では、肯定的な回答（よく・やや）が 100%に達しており、平均値も 3.5 と非常に高くなっています。また、差別やいじめのないクラスづくりへの協力も全員が肯定的に捉えています。
- ICT の活用： タブレット端末を活用した学習に意欲的に取り組めたと感じている生徒が 85%（平均 3.2）おり、デジタル環境への適応が進んでいます。
- 生活習慣と将来： 基本的な生活習慣（平均 3.2）や、将来の夢・目標について考えること（平均 3.2）についても、概ね良好な傾向にあります。

課題：学習の振り返りと粘り強さ

- 家庭学習への接続： 「授業の最後には、学んだことを振り返り、家庭学習につなげることができましたか」という項目は平均 2.7 と、全項目の中で最も低くなっています。約 4 割の生徒が「あまりあてはまらない」と回答しており、授業と家庭学習の連動が大きな課題です。
- 粘り強い取り組み： 苦手なことや難しい問題に「あきらめずに粘り強く取り組めた」と感じる生徒は平均 2.9 に留まっており、自己評価がやや低い傾向にあります。

2. 保護者アンケートの傾向と課題

傾向：学校情報の共有と家庭での対話

- 情報の共有と理解： 学校からのお便りや HP の確認（平均 3.4）が非常に高く、学校の教育方針への理解が示されています。
- 対人関係への意識： 家庭でも「思いやりと人権意識」について伝えることができており（平均 3.4）、生徒自身の「思いやり」の高さとも一致しています。
- 健康と地域： 「食」の重要性や健康管理（平均 3.3）、地域行事への関心（平均 3.3）も高く、家庭での支援が充実している様子が伺えます。

課題：学習環境の整備とメディア利用ルール

- 家庭学習の励行： 「家庭での学習に取り組むよう、声かけや環境づくりができましたか」という項目は平均 2.6 と最も低くなっています。約 45%の保護者が否定的な回答をしており、生徒側の「家庭学習への接続」の課題と密接に関係しています。
- 基本的生活習慣の確立： 「メディア利用のルール」など、学習に向かえる生活リズムの整備（平均 2.8）も課題として挙げられています。

3. 職員アンケートの傾向と課題

傾向：校種間連携と服務規律の遵守

- 小学校との連携: 小学校との情報共有や中 1 ギャップ解消への取り組み(平均 3.3)が最も高い評価となっています。
- 信頼される行動： 服務規律の遵守や「魅力ある教師」としての行動（平均 3.2）も安定しており、プロ意識の高さが示されています。
- 受容的な指導： 生徒の自己肯定感を高める指導（平均 3.0）や、不登校生徒等への組織的な支援（平均 3.0）も一定の水準を維持しています。

課題：ICT の効果的活用と組織的協働

- ICT 活用の質： ICT を「効果的に活用し、生徒の意欲や主体性を引き出す授業」については平均 2.7 に留まっています。半数の職員が「あまりあてはまらない」と回答しており、端末を使うだけでなく、主体性を引き出すための活用法に苦慮している現状が見て取れます。
- 組織的な取り組み： 校務分掌における「親和協力・協働補完の姿勢」（平均 2.7）も課題となっており、組織としてのチーム力の向上が求められています。
- 表現力の育成: 言語活動(ペア・グループ学習等)を重視した授業展開(平均 2.8)も、さらなる改善の余地があります。

全体を通じた分析

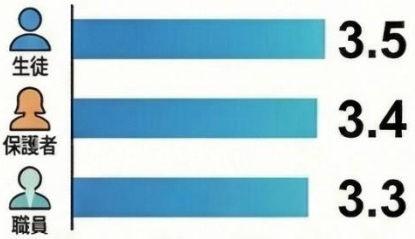
- 「家庭学習」の共通課題： 生徒・保護者の双方で「家庭学習への接続・励行」が最低評価となっており、学校と家庭が連携して取り組むべき最優先課題です。
- 「ICT」に関する認識の乖離： 生徒は「意欲的に取り組めた」と感じている一方、職員は「意欲を引き出す効果的な活用が不十分」と捉えており、活用の「質」を高めるための授業改善が必要です。
- 人間関係の土壌： 三者共通して、思いやりや人権意識、対人関係については良好な数値を示しており、これを基盤とした学習指導の充実が期待されます。

令和7年度 学校評価アンケート結果と次年度の重点目標

鹿児島市立吉田北中学校

今年度の成果（強み）

● 三者共通で「思いやり・人権意識」が非常に高い



平均値が非常に高く、相手を尊重する校風が定着しています。

● 学校・家庭・小学校間の良好な連携

情報発信　3.3（保護者評価）

小学校との接続　3.3（職員評価）

学校からの情報発信や、小学校とのスムーズな接続が良好に維持されています。

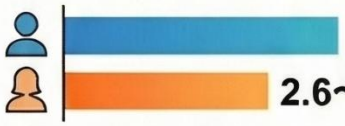
● 生徒のICT活用への高い意欲

3.2（平均）

生徒アンケートにおいて、タブレット端末を活用した学習への意欲が安定して高い数値を示しています。

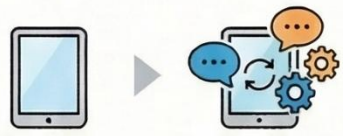
今年度の課題（解決すべき点）

● 家庭学習の習慣化が三者共通の最優先課題



評価平均が2.6〜2.7と最も低く、家庭での学習環境づくりや効果的な課題提示が急務です。

● ICT活用の「質」の向上

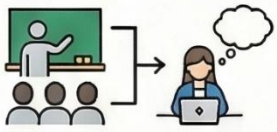


● 粘り強く取り組む姿勢（レジリエンス）の育成

困難な課題に対してもあきらめずに取り組む姿勢について、さらなる意欲向上のためのアプローチが必要です。

次年度の重点目標（解決策）

● 授業と家庭学習をつなぐ「振り返り」の徹底



授業の終わりに学びを言語化し、その日の家庭学習の内容を生徒自身が明確にイメージできる指導を強化します。

● 自ら考え、表現するICT活用授業の展開

知識の習得だけでなく、自分の意見をまとめ、他者に伝えるためのツールとしてICTを日常的に活用します。

● 学校・家庭・地域が連携した「学びの環境づくり」

「早寝早起き朝ごはん」の徹底やメディア利用ルールの確立など、学習の基盤となる生活習慣を地域全体で支えます。